

東北大学・読売新聞共同プロジェクト
市民のためのサイエンス講座 2014

ここまでに わかった 認知症 予防とケア

65歳以上の7人に1人になるといわれる認知症。社会的な関心も高まっていますが、実は誤解や勘違いも少なくありません。研究や診療の最前線で活躍する東北大学の研究者の講演で、認知症について正しい知識を学びませんか。

■講演

14:05 ころ

認知症の医療介護連携：早期発見から長期ケアまで



目黒謙一

東北大学大学院医学系研究科 高齢者高次脳医学 教授

認知症とは、脳の病気により認知機能が低下し、日常生活に支障を来たした状態であり、医療介護連携や包括ケアを必要とする。家庭や地域における早期発見に加え、抗認知症薬と心理社会的介入の効果を判定するためにも、正しい知識が必要である。また、最新の知見として、抗認知症薬により、発症後の余命を延長させる可能性が示された。

【講師略歴】東北大学医学部卒。同大学院医学研究科修了。フランス国立衛生医学研究所、米国・ワシントン大学アルツハイマー病研究センター、ブラジル・サンパウロ大学医学部神経内科、田尻町スキップセンター所長などを経て、2005年から現職。大崎市民病院田尻診療所・認知症診療対策室長。

15:15 ころ

脳卒中の予防と脳健診



木之村重男

東北大学非常勤講師 NPO 法人画像医学と脳健診診療所所長

寝たきりの原因は 60%前後が脳疾患によるものとされており、脳疾患の予防、早期発見・治療が重要となっている。脳健診や一般健診を組み合わせることにより、脳血管性認知症の原因となる脳卒中の中にはある程度予測、コントロールが可能なケースもある。健康な脳を維持するためには健診と全身の健康維持が大切だ。

【講師略歴】信州大学医学部卒。東北大学大学院医学研究科修了。スウェーデン・カロリンスカ王立研究所客員研究員、東北大学加齢医学研究所助手、同病院講師などを経て、2009年から NPO 法人画像医学と脳健診理事長、診療所所長。日本核医学会核医学専門医、同 PET 核医学認定医。

15:45 ころ

認知症ケアの知好楽～ご本人とご家族の“心”の支援～



山崎英樹

東北大学非常勤講師 いずみの杜診療所医師

「論語」の一節にある『知好楽』という言葉を通して、認知症のスピリチュアルケアについて考えてみたい。脳の病による身体の不自由を頭で考え（知）、心に感じ（情）、魂で人とかわり合い、肯定的な死生観を意志として持つ（意）ことが、バランスのとれた認知症ケアのいわば知情意であり、そして『知好楽』に通じると考えている。

【講師略歴】東北大学医学部卒。同大学病院、三枝橋病院、国立南花巻病院（神経科医長）を経て、1999年仙台市に「いずみの杜診療所」を開業。宮城県内で診療所や介護施設、精神科作業所などを運営する清山会医療福祉グループ代表。著書に「介護道楽・ケア三昧」（雲母書房）「認知症ケアの知好楽」（同）など。

日時：2014.1.29(水)
14:00-16:30 13:30 開場
場所：東北大学 片平さくらホール

■入場無料 定員 156名

※下記要領でお申し込みください。お申し込み多数の場合先着順となります。

主催：東北大学 読売新聞東京本社

会場へのアクセス

■東北大学（片平キャンパス）
片平さくらホール

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1番1号

駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。一番町通を南下し南町通、五ッ橋通を渡って直進すると東北大学片平キャンパスの北門に至ります。北門からさらにキャンパス内を直進した右手に片平さくらホールがあります。最寄りのバス停：青葉通一番町または一番町中郵便局前（片平キャンパス正門からのアクセスの場合は、最寄りのバス停は「東北大正門前」）



■お申し込み方法

「住所・氏名・職業・年齢・電話番号・希望人数」を明記し、ハガキ、FAX または Eメールでお申し込み下さい。入場整理券を郵送します。

- ハガキ宛先 〒980-0021 仙台市青葉区中央 2-3-6 読売仙台ビル3階 読売新聞東北総局 「市民のためのサイエンス講座」係
- FAX 送付先 022-222-8386
- Eメール送信先 tohoku@yomiuri.com

■お申し込み締切 いずれも 1月24日(金) 必着

■お問い合わせ 読売新聞東北総局 TEL 022-222-4121
東北大学総務部広報課 TEL 022-217-4977